

ARAKAWA+GINS Tokyo Office

荒川修作 インタビュー (日本語 文字起こし)

ICC インタビュー・シリーズ 02 : 荒川修作

NTT インターコミュニケーション・センター(ICC)、1997 年

(00:55)

見てすぐわかるように、日本人で何の特殊性もない人間で…たまたま 2、3 のラッキーな…運命的なことに身を寄せたがために…デタラメなジグザグな道であったけれど…一つの新しい哲学というか思想まではいかないけれど…アイデアを実行に移そうという大きなリュックサックのようなものを背負わされた人間は、支離滅裂な方向に向かうか、それともこれを少しでも構築の方に向かうかというのが…僕のような人間のプロフィールだな。

思考するとは何か? (02:35)

哲学をするというのは鉛筆と紙でできることだな、言語を使って。絵を描くというのはキャンパスの上に何かすることだな。彫刻をつくる-すべてフレームがあること-詩を書くこと。

あのようなフィクションをどうして我々はこんなにも半強制的に信じるようになってしまったのか?例えば僕の場合をとれば絵描きだな…絵なのにキャンパスの上にはこの指一本入っていないんだ。

生活空間もない日常空間もない。まあいわゆる本当にフィクションの世界をどうしてこんなにこの我々の文化体系の中では高く評価するんだろう?

それに悩まされた長い間。

もうそれは(ニューヨークに)行ってもう何週間も経たないうちからそれがあった。

それともう一つは私のように日本人として生まれた人間は、いったい体系のようなものが立てられるのか?それで実験として始めたんだよ、最初は。

最初の 2、3 年はもう無我夢中だったんだ。

5 年 6 年と過ぎる頃は、これはできないこともないという確信が出てきた。それはね…これは確実だけれど…自分の生まれた所から距離を持ったことなんだよ。

この地球上で日本人として生まれたことは一体どんなことだったというのは、行った途端にどんな人間でも考えるんだ、外国へ行って住むためには。

そうするとまず「言葉」の問題だな。いったい日本語でものを考えるとはどういうことだ?

それから日本人の持っているその感性というのはどのように使用しているのか?その意味をち

ARAKAWA+GINS Tokyo Office

よっとではなくて一度、徹底的にやってやろうと思ったの。

それはもう案外感覚的に始めた。徹底的にやってやろうというのは。

それほど欧米の哲学者や思想家のように我々にはいい例がないんだよこの国には。だから、だからと言ってできないことはないだろうと思って。

それで…あのタイトルなんか嫌いなんだ、《意味のメカニズム》1963/88 だなんて大袈裟なこと。

(画像：6:06：「意味のメカニズム」より 《組み立て直し、主観性の中性化》1963/88)

だけど結果的にはそうなってしまったけれど。本当にジグザグに外国語…英語だね、僕の場合には…と日本語で意味について全くこれはもう考えられない不可能と思っていた事を自分ではやっていたんだよ。

約 10 年やってみて日本語の特殊性/特殊なところと、英語の特殊なところが僕なりにわかってきたんだよ。その中にたまたま身体の動きってというのが、意味について仕事をするためにどうしても出てきてしまったんだよ。ちょうど 1970 年の始め、60 年のおしまいに出来たな。

これには参ったね。本当に参ったな。未だに少し参っているけど。

そこから嫌でも Experimental psychology (実験心理学) っていうか、嫌でも入っていかなくちゃいけない。それで真剣にそちらへ入っていったんだよ。

だから私の場合は結局…結果的に言えば、60 年の始めから本当にこの間まで、日本語でなんて訳すんだろう実験心理学っていうのかあれ？ Experimental psychology って、それをずっとやり続けてきたんだな。何があろうと、人間の世界から飛び出そうとした。

建築（的身体）とは何か？ (08:32)

まずどうして、これだけたくさんあった芸術の形式から私が「建築」するということを選んだかっていうと、先ほども言ったように身体の動き、それから一番身近で全ての人が忘れてしまっていた肉体ってやつ。それを使用しない限り何ごとも始まらないということがわかった。

それでそれこそがいわゆる日常空間とか生活空間を作っている最も基本の単位なの。唯一残っている形式は身体っていうものを/身体の動きっていうものを入れられる形式は建築しかないの。だからちょうど 1970 年の始めから意識的にそちらへ入っていったんだな。

そうして…どうしてあなたは日本か…私がやろうとし始めたことはまず新しく建築という言葉の意味をまずこの字引（辞書）から変えなくちゃいけないんだよ。

ARAKAWA+GINS Tokyo Office

そうするとどの国がそれを実行しやすいかというと、無思想で無体系的な国が一番いい訳なんだよ。なぜかと言ったら、体系とか思想がある国はそう簡単に一つの長い伝統を持った言葉の意味を変えることは不可能だな。

だから欧米ではまず不可能なの。それで日本という国から始めようとしたの。それと、たまたまこの日本人の性質が 21 世紀に向いていることがわかったんだよ僕は。

なぜなら、今まで世界の人に言われていた、しかも日本の知識人も普通の人も知っているだろう自分たちの欠点を、このような chaotic (無秩序) でものすごい abstract (抽象的) な時代になった時には使いやすいんだな。それが証拠に日本の技術革命はすごく臆病な短期で無思想で無体系で起こりやすい。そういう条件が揃っていたからできたと思ってる。今でもそう思っている。だからそれを利用して、一つ建築の形式どころか一つ常識及び日本人の道徳、日本人のコモンセンス、それから倫理っていうやつを変革してやろうと思ったんだよ。

それで私にはもうそれしかないと思ってるんだよ、建築革命しかないと思ってるこの国は。なぜなら体系や思想のない国は事実より信じない。

だからこの国でどんなに素晴らしい思想を輸入したり、どんなに素晴らしい絵画とか音楽とか何か言っても消費しちゃうんだよ、食べ物のように。だから僕の知っているかぎりの日本、例えば 1950 年以後の、この 40 年とか 50 年は思想も食べ物も自分の運動も自分の人生も全て同等に消費しているんだよ。だから何も残らないって。だから無意識のペシミズムなんだよ。外国は意識的なペシミズムなんだよ、そこが違んだよ。だからこの違いは決定的なんだよ。

どちらがいいという訳ではないんだよ。無意識と意識的なペシミズムの違いとはもう決定的な違いなの。その違いを一つずつ僕は今出していこう。それを出すには「建築」という形式が最も素晴らしいと。

…間違えてもらおうと困るけれど「建築」と「建物」とは全然違うんだよ。

この国には「建物」を作る人を建築家って言っているんだよ。建築家はおよそそれから程遠いものなんだ。ひょっとすると何も関係ないんだよ、建物と建築家っていうのは。だから僕の知っている限りではこの国には建築家は一人も居なかった。

建築するとはこういうことなんだよ。建築の原型っていうのは「私」と pronounce (発音) した時に浮かび上がってくるものがあるんだよ。その浮かび上がってくるものをなんとか外側に作り上げようとして構築しようという行為なんだよ、僕には。

ARAKAWA+GINS Tokyo Office

そうすると、「私」というものが「人」になる間には、ものすごい距離と Dimension が変わるんだ。もはや共同性を帯びるんだ。

「私」、「あの人ね！」って言うだろう。あの時は、もはや人は共同性を帯びてるから、いいかね、その時の環境が全て入っちゃってるんだな。けれど「私」の場合は環境に支えられた「私」があるんで、まだ少し定点があるんだ。けどもう「あの人」になった時は確実に遍在としてしかないよな。

そうすると「あの人ね」ってなった時はもはや共同体…まではいかないけどそこまで近いんだ。だから「建築する」とは、一番最初に pronounce（発音）した時に / 「私」と言った時にイメージとか、それに伴ってくる色々な内容があるだろう。それをどのように形作り、それから…出来ればだよ…その仕様も考える人のことを「建築家」って呼ばなくちゃいけないな。

奈義と養老、人工の自然とは何か？ (16:25)

全ての欧米もアジアの思想も「与えられ自然」だな。自然の現象を眺めてそこから「ああしよう」「こうしよう」ってやってるんだよ、全てそうなんだ。いいか、僕の場合は、いいか私の場合は、決定的に違うんだ。自然をこっちで作ってやろう、作り直してやろうって。

日本人は聖地なんてものをみんな作ったんだ、たくさん。「富士山、すごいですねえ、完璧ですねえ。」って、あんなの 100 でも作れるんだ、作ろうと思えば。もっと高くて一年中雪が溜まるようなのを東京のど真ん中にできるんだよ。誰もやらない。あんなに富士山が好きならどうして作らないんだろう？ 杉並区を富士山にしちゃってもいいんだよな。それで、そこにまた街を作ればいい。それで杉並区にある富士山は 1000m 高いんだ、オリジナルの…いわゆるあれよりも…最初の古いやつよりも。

そうしたら、今から生まれてくる子供たちはこっちの方が好きだよ。こちらを拝みに来るんだよ。どうしてそのように自然に真っ向から反対して自分たちでコントロールできる自然の方に向かわないんだろう。そうしたら、その山の使い方もわかるんだよ。それを僕は始めたんだ。それは《意味のメカニズム》とかそういうことをして僕は知ったんだ。それと、距離を置くことによって自分の国から。

もしそうだとしたら何が残っているかって言ったら、僕には…私には、自然自体を人工的に作

ARAKAWA+GINS Tokyo Office

る、どういうことかと言うと、自分の生きてる時代のエセックス/倫理ってのを変えちゃうことなんだ。もう常識とか道徳なんかどうでもいいんだよ。

そうなる大変不思議なことをやらなくちゃいけない。

(画像：18:20：《養老天命反転地》)

不思議っていうよりね案外過激なことをやらなくちゃいけないな。

それで初めて奈義（《遍在の場・奈義の龍安寺・心》1994）の問題や、岐阜（《養老天命反転地》1995）の問題が出てきたな。あそこに日常空間…たくさんの人が住んでほしいんだよ。それで、その中で足を折ったり、首を折ったり、ご飯を食べたり、便所に行ったりする中から、生まれてくる出来事が作り上げる現象を、僕はこの日本で「建築的身体」っていうんだ。

(画像：19:13：《遍在の場・奈義の龍安寺・心》)

それはなんだって言うと、「魂」っていう言葉を字引から永久になくそうっていう行為なんだ。肉体と建築的身体しかありませんっていう。この肉体っていうのは滅びるけれど、建築的身体は永久に生きる可能性があるんですよ。もし、私のこの街や村やこの環境を作ってくれたら、それは地球が破裂しても壊すことができないんだよ。なぜなら全く違うところから発生する可能性があるんだよ。

文明とは何か？ (19:45)

せめて自分の生きてる時代に、いっぺん日本文明というのはどんなものであるかということをも明確に形作れないだろうか。そういうのはやっぱり1970年半ばくらいから考え出したんだ。だけど、やればやるほど分からなくなってくるんだよ。

なぜなら僕はたまたま外国に住んでるから、向こうではもう Take for granted (当たり前) なんだ。Civilization (文明) っていうのは当たり前なんだ。我々は Civilize (文明化) された所にいるから、っていうようなのだけど、ここ (日本) へ戻ってくるとそうはいかないんだよ。だから僕なんかもう分裂症気味みたいだ、ここへきてこういう風に喋ると。

今なんかものすごく不思議なんだ。「文明」って言いながら頭では「Civilization」って頭なんだ。だからこれは日本の知識人が全部背負ってるもので、特に福沢諭吉さんなんかそれでこんなになったんだ、おそらく。

じゃあなんだ「文明」とは。あの漢字で書かれた「文」と「明」ってのは、どんなに僕がこうしても分からないんだ。だから、日本の中の文明ってなんだろうってことはこういうことだろうって思うんだ。まず都市化から始めなくちゃいけない。Urbanization っていうやつだな。都市化

ARAKAWA+GINS Tokyo Office

から始めなくちゃいけないんだ。もっとはっきり言えば、やさしく言えばこういうことだ…文明の基礎はこういう所にあるんだよ。

日本で生まれた…この4つか5つの島で生を賜った人は…まあ大体考えて縄文の前でもいいや、洞窟かなんか住んでたな。毎日ビクビクしてこうして…それで、あの洞窟の前も大きな岩やいろんなもので塞いじゃって、もうほんの少ししか溝がないんだ。青空も見えない。

けどそこから覗く世界はすごいんだよ。天気の良い日は青空があるし、水は流れているし、川の中ではなんとなく自分達が腹減っているときはこれと思うようなものがあるし。ということは狩猛な動物とかなんかが最も素晴らしい所に住んでいて、自分達はこんな所に居るんだよ。それである日考えたんだ。

「どうして俺らはあの動物のように住めないんだろう？こんな素晴らしい青空の下で」、隣のやつに聞こうとしても隣の Cave (洞窟) はものすごく遠いんだよ。そうすると共同性もまだ成り立ってない。これでもう一つ自分の…女性と子供と自分があれば…どう見てもあの熊に体当たりしていくのは俺なんだよ。じゃあ、あそこを獲得するためにはあの危ない中に入っていきよりしょうがないって。それでその男はそこを降りてったわけだ。最初は何が何だか分からない素手で行ったわけだ。

パクってやられちゃったんだ。それを見ていた女性か男性が、なんかこんなのを持って来たわけだ。石を持ってパッとやったらそんな石の一つぶつけたぐらいじゃどうしようもない。パクッと食われちゃったんだ。

それを見ていた隣の Cave (洞窟) のやつらが、「俺もやってみよう」「俺もやってみよう」…つとところから「共同性」が始まったんだな。そこから言葉ってもんが生まれてきたんだ。サインとか。「お前いけ、俺も今行くから」…おそらくそうだろう。いいか、死に物狂いの戦いが何百年、何千年と始まったんだよ。この国でだよ。

それであるとき獲得したんだよ。槍を作ったりなんかして。それで自分の一番住みやすいところへ行ってみたいと思ったら、川淵の横に洞窟やなんか全部壊したんだよ。そのとき一番最初にやらなくちゃいけないのは、その危ないやつを防ぐために都市化が始まったんだよ。それを文明っていうんだよ本当は。そのように、まともに説明したやつがこの国には一人もいないんだよ、やさしく。

ARAKAWA+GINS Tokyo Office

「文明はこの国以外にある」って言ったんだよ。偉い人たちは。福沢諭吉さん。

「向こう見てみろ」「向こう見てみろ」「向こう見てみろ」…向こうっていうのは、みんな地平線なんだよこの国は。いいか地平線を乗り越えるためには、すごい船を作って、戦いの道具を持っていかなくちゃいけなかった、だから誰もいかなかった。行ったのは100年か200年前。いいか、それくらい臆病な国民なんだな。いいか、これだけ海に囲まれてたら、どんな奴でも海行って夕方にはこうやって覗くんだ、秋の夜か春のお終いくらい。

「一体あのへんちくりんな線の向こうには何があるんだろう?」、誰でも考えたはずだよ、どの村のやつも。「いやあ、なんだろうなあ」それくらいなんだよ。それを疑ったのにな「向こう側に、俺はじゃあ行ってみる!」ってやつが出てこなかったんだよ。

どうしてだと思う?それを究明したいの。この臆病さ、この個性を捨てたものはそこから出てきたんだよ。それにはいくつかあるんだよアイデアが。それを一つ直してやろう。

だから僕がこの建築の方へ入っていった一番の根本は、「この日本人の性質はどのようにできたか」っていうのを決定的に直す方法はないかって。

(画像: 26:01:《東京臨海副都心 集合住宅プロジェクト》)

それは一つの最も素晴らしい環境の村か街を一番希望のない奴らに与えるってことなんだよ。そしてその希望のない奴が、その自分に与えられた素晴らしい自分の居間から/住んでいる生活空間のあるところから星を眺めたりするんだよ。そうすると今度は星を馬鹿にできるんだ。「あんなもの」って。今度は富士山なんか見て「あんなもの、俺の部屋を見てみろ」って。「俺の住んでいるところを。もっと大きいぞ、もっと素晴らしい」って言うんだよ。

その時に初めて希望とか自由って意味が出てくるんだよ。言語は行為を持つためには、それなりの環境を作らなくちゃいけないんだよ。それはここ(頭)から入ってくるものじゃないんだ。肉体の動きから入って来るんだよ。肉体の動きはあらゆる Perception / 我々の視覚や知覚を変えるんだよ毎秒。その出来事によって新しい言葉が生まれるんだよ。新しいサインが生まれるんだ。それが無い限り決してその国民の文化は生まれないんだよ。だからこの国には文化が無いんだよ。ゼロ…Pure Zeroだ。

それで俺は頭にきたんだ。今でもきてるけど。頭だけじゃなくて体にもきてるけどな。それで一つ決定的にやってやろうと思ったんだけど、何せ臆病の国に生まれた…俺も臆病なんだよやっぱ。こんなこと大きな声で言ってもしょうがないんだけど、大きな声出してしまうけれど。この悲しさはどこにも持っていくところがないんだな。だからできる限りの行為をしようと思って今日はここにいるんだよ、このカメラの前に。僕はこういうことができない人間だけど、

ARAKAWA+GINS Tokyo Office

僕はこれから始めなくちゃいけないよな。

それで僕は若い者に希望を託してるんじゃないんだよ、自分に希望を託しているんだ。今からやって来るものになんか全然希望を持ってないんだ。それから今まであったものにも。これっぽっちもない。両方全然ないんだよ僕は。だからいかにしてこの今を、この私が抱いてきたものに近づけるか、それしかないよな。

コンピュータと芸術の関係とは？ (28:54)

時間の節約と Dimension (次元) の節約を図るために色々この 10 年、20 年技術が開発されてるだろう…あれは精神的には良くないものなんだよ本当に。

ということはね、今のところ、どれだけ物理学が、それから生物学が、それから数学が進んでもね、私達の頭は一つで、腕は二つで、足は二本なんだ。それに関係なくテクノロジーが進んでるんだよ。これは大変なことなんだ。どれくらい大変なことかっていうと、もうすぐ君たちは、僕が言わなくても分かるんだろうけど、我々が作り出している道具はもう使えなくなって来るんだよ。

とくに僕のような職業を持ってしまった人が、えらくデジタルなものとか、いわゆるコンピューターのようなものに希望を抱いてたらね、幻滅になるかはもう時間の問題だよ。相当ひどいことが起こるよ。何年もしないうちに。なぜなら、自由とか真理、希望を持つというものの Dimension になるっていうのはどのようなものだって言ったら、およそデジタルの世界からは遠いもの。だから、最も希望とか自由から外れたものなんだよあれは。コンピューターとかは。いわゆる夢を持ってないものなんだ。

でも、一人や二人、天才的なやつが出てきてね。全く新しい使用法を見つけて、それでなんかやる可能性がないとは言えないよな。だけど結果的には…こういうことを僕が言うのはおかしいけど…なんであろうと、私と呼ばれるこの私よりも素晴らしいコンピューターを作ったら我々は不幸になるんだよ、結果的に。だから…そんなものは出来るはずがないけれど出来たって不幸なんだよな。

なぜなら、ここからは全くピュアな哲学的問題だけれども、あなた達聞いたこともあるだろうけれども、人工知性だとか人工生命なんて、あるだろう？あの言葉につられてますますコンピューターの世界は進んでいるけれど、私が誰かが人工生命を作ったとしたら、それになるって

ARAKAWA+GINS Tokyo Office

ことは全くコンピューターとは関係のないことなんだ。そうだろう？

ここに永遠に生きるコンピューターが出来たとしよう。それで生命もあるということが分かった。だけどあなたがそれになる保証はおよそないんだよ。こう言ったら、なんのためにそれ作ったんだろう…。

だからそれよりも、私の行為によって、この身体の行為によって生まれてくるものは必ず私の延長だろう。もっとはっきり言えば共同で作りあげられているものだろう。それの方がはるかに希望が持てるものだな。だから僕は、どちらかと言われたらこちらだ。

— 終 —

Source: ICC Open Video Archive

(<https://hive.ntticc.or.jp/contents/interview/arakawa>)

ARAKAWA Shusaku Interview, at the NTT InterCommunication Center (ICC), Tokyo, 1997. 33 minutes 52 seconds.

Subtitles by *Reversible Destiny* Foundation and ARAKAWA+GINS Tokyo Office, 2020

All the contents of this newsletter are licensed under a [Creative Commons: Attribution - NonCommercial - ShareAlike](#) license. Please refer to the [Deed](#) for further details.

